友人として留学生をサポート

異文化交流サークル―アイセス―

ICES

Inter-Cultural Exchange Society

香川大学の中でも、異色のサークルと言えるのが「ICES」です。Inter-Cultural Exchange Society、つまり異文化交流サークル。目的は、香川に来ている留学生のお手伝いをすることです。

「よく、英語が話せるようになるんじゃないかと思って来る人がいるんですが、そうじゃないんです」と、人なつっこい笑顔で教えてくれたのは、前部長の忽那祐佳さん（教育学部3年）。留学生の方は日本語の勉強をしたいと思って来日しているので、基本は日本語でのコミュニケーション。留学生の日常生活をさりげなく助けるのが目的なので、大学や留学生の寮でパーティをしたり、香川県のことを知ってもらうために県内あちこちに出かけたりする活動が多いそうです。

「最初は一緒にレンタサイクルで高松市内を走ります。そこでスーパーの場所を教えたり、郵便局の場所を教えたりして、生活に最低限必要なことができるようにサポートするんです。うどん屋の場所も大切ですね。うどんって、どの国の人にも評判なんです。世界に通用する食べ物ですよ」。

このような時間を過ごしながら、友だちとして留学生とつきあっていくのがICESのやり方。そのおかげで、卒業後・帰国後も交友関係が続いていくのが特徴です。忽那さんも帰国した台湾の留学生と、今でもメールやチャットをする仲だとか。活動を通して、世界各国の文化への理解度がかなり深くなったと言います。

このように、普段の活動内容が自由なICESですが、大きなイベントを主催することがあります。主なものは、留学生を迎える「ウェルカムパーティ」と、留学生を送り出す「フェアウェルパーティ」。どちらも、大学の留学生すべてが対象になるものです。来年はサークル創立10周年なので、OBの方も参加できる記念イベントも計画中です。

また、国際フェスタなど、学外のイベントに協力することもあります。一般の国際交流支援団体とは普段からつきあいがあり、助けられることも多いそう。だからこそ彼らが主催するイベントなどにはサークルとしても参加して、よりよい国際交流の場となるように協力します。

ところで、サークルに参加した感想を忽那さんに聞いてみたところ「実はサークル活動をやっていたという感覚ではないんですよ。楽しい時間を共に過ごした感じです」という言葉が返ってきました。これはきっと『友だちとしてサポートする』というICESのスタンスによるもの。しかし、これこそ真の国際交流とも言えます。留学生の立場から考えてみると、見知らぬ土地に来て不安いっぱいの時、向こうから話しかけてくれて、一緒に遊んでくれる現地の友だちができることが、どれだけ心強いでしょう。共に過ごした時間が思い出となり、きっと香川県や日本人の良いイメージを母国に持って帰ってくれるに違いありません。

地域と取り組む清掃活動

香川大学教育学部学生連合ネットワーク

SUN

Student Union Net work

香川大学の教育学部には、高校の生徒会のように、学生と大学をつなぐ学生側の窓口として『SUN』という組織があります。

正式名称は『香川大学教育学部学生連合ネットワーク』。Student Union Networkの頭文字を取って名付けられたこのグループは、教育学部生の代表7人を執行部として、教員や学務係の協力のもと、学生代議委員会・学生大会の運営、SUN主催イベントの企画・運営等など、教育学部生の学生生活をより良くする活動を行っています。

大学生のための組織と『地域貢献』というテーマ、一見接点がないようですが、このSUNが力を入れているもう1つの活動が、大学周辺の清掃活動。毎週火曜日の朝7時半から1時間ほど、SUNの呼びかけで集まった学生や、放送大学に通う社会人、地域のボランティアが一緒に正門周辺のゴミ拾いをしているのです。

地域の人に誘われたことをきっかけに約4年前から始まったというこの活動は、現在教育学部だけでなく、他の学部の学生も参加するものになり、横の繋がりを広げています。SUNはメールやポスターで告知をしたり、緑のジャケットやロゴ入りTシャツを着て呼びかけを行い参加者を募っているそう。『ほうき、ちりとり、ゴミ袋や軍手などは用意してあるので、身一つで参加OK。参加できる日だけ来ればいいし、途中参加からでもかまわない』という自然体な集まりは、途切れることなく毎週続いています。

「ゴミの捨て方など、自分の中の環境意識も変わりましたし、なにより参加すると気持ちがいいんです。空気が気持ちいいですし、早起きできた！という達成感があります。一緒に活動している地域の方や放送大学に通っている方と交流できて、人の輪も広がりますよ」と執行部の井上知佳さん。

普段の活動もさることながら、特に力が入るのが年2回の大掃除です。50人近い参加者に加え学長や知事も参加するこの日は、大学の敷地内にも清掃の手を広げて草抜きやゴミ拾いを行うそうです。

落ち葉やタバコの吸殻、パンの袋など、様々なゴミを集めると、リヤカーにゴミ袋を満載して4、5往復する量に！しかし「清掃活動を続けている中で、捨てられたゴミは減ってきた印象があります」と経済学部の小笠寛幸さんが感じているように、ゴミ拾いを続けることで、目に見える変化は確かに現れているようです。

「SUNはこういった活動の場を提供し続けることで、教育学部の学生だけでなく、他の学部の生徒が参加しやすいようにできればと考えています。小笠さんのように執行部の役員より参加率が高い人もいますから、僕たちも見習わないと」と執行部の大西俊輝さん。地域と学生の協力で、今日も大学周辺はきれいに保たれています。